

4 地球温暖化に対してできること

技術…材料と加工の
技術

(4) 木材の利用 (緩和策)

森林の育成

森林は、光合成をすることで二酸化炭素を吸収しています。それでは、地球温暖化対策のためには、森林の木は切らずに大事に育てる方がよいのでしょうか。

森林には、天然林と人工林がありますが、人工林は間伐などの整備をしないと森林の中に光が差しこまず、森林が荒廃していきま

す。福岡県の森林面積のうち、人工林の占める割合は64%で、全国平均の46%より高くなっています。二酸化炭素を吸収する森林を守っていくためには、「植える」「育てる」だけでなく、木材を「使う」といったサイクルが大切です。

【天然林】
・人の手があまり入らずに、自然にできた森林。

【人工林】
・人のくらしを支えるために、苗木を植えて、育てた森林。

■ 森林 (人工林) のサイクル



木材の特徴

木材には、軽くて丈夫、木目が美しい、肌触りがよく温かみがあるなど、他の材料にはない特徴があります。また、木材を接着して強さを高めた集成材は、大きな木造建築物にも使われています。

さらに、木材を住宅や家具等に利用することは、木が大气から吸収した炭素を長期間にわたって、木材として貯蔵することにもつながります。



<探してみよう>

木材でつくられた建物を探して訪問してみよう。材料となった木材がどこで育てられたのかも調べてみよう。

(木造建築の紹介例)

- ・福岡の木利用ガイドブック*1
- ・福岡県内公共木造施設の紹介*2



福岡の木利用ガイドブック*1

■ 県内の木造施設の例



(左) 九州国立博物館 (太宰府市)

天井に九州各地の間伐材約4,000本を丸太の状態で使用

(右) 九州芸文館アネックス2 (筑後市)

地元八女産や国産のスギを利用。家具や建具にも県産材を使用



(下) 福岡県庁 (福岡市)

1階ロビーには、主に2017(平成29)年の九州北部豪雨で被災した朝倉地域のヒノキやスギを使用

*1 福岡の木利用ガイドブック (福岡県)
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/catalog0315.html>
 *2 木材活用事例 (福岡県木材組合連合会)
<https://fukuoka-kenmokuren.com/case/>